



主な内容

- 各分野で活躍した学生に学長賞を授与 ●安村学長執行体制2期目 ●2つの大学ランキングで好評価得る
- 工学部ワールドロボットサミット2018で2位入賞 ●公認会計士試験に“一発合格” ●入学式／卒業式
- 各学部ゼミ研究成果活動 ●附属中京高校がeスポーツ部創設 ほか

※表記について：掲載された方の肩書き、学年は全て行事の行われた時のものです。

各分野で活躍した学生に学長賞を授与

2019年に入り、学長賞が相次いで選定された。

各分野で活躍し、著しい成果を上げた学生が安村仁志学長から表彰された。

【学長賞とは】

学長賞は2016年度から設けられた、学内外で活躍している学生を学長が表彰する賞。

学部の推薦などによって決定する。



学長賞



総合政策学部

金澤 つき美さん

日米学生会議に参加し、運営にも携わる

総合政策学部4年の金澤つき美さんは、3年次に日米学生会議に参加し、活動の運営にも携わった。その取り組みに対し、1月16日に学長賞が贈られた。

日米学生会議 (Japan-America Student Conference—JASC) は、日本初の国際的な学生交流団体。米国の対日感情の改善、日米相互の信

頼構築を目指し、1934年に発足した。

金澤さんは3年の時、大森達也教授(総合政策学部長)から団体について紹介され応募。日本代表36人の一人に選ばれた。日米の学生が約1か月の共同生活を送りながら、さまざまな世界の問題に対して議論を行うこの会議で、「アメリカの学生と比べ、プレゼンテーション力の差を大きく感じました」と話す一方、議論の内容、アメリカ人学生の発言力に刺激を得て、「差があっても議論しなければならぬ状況で、納得させられるアプローチの仕方を学んだ」という。翌年には実行委員として会議の企画や運営にも携わった。

安村学長は「素晴らしい経験を自分の経験のみにせず、中京大生の先駆けとして、ぜひ後輩にも伝えてもらいたい」と激励した。

金澤さんは「昨年は国際センターで広報を行ったり、国際系学部の友人に声掛けをしたり、地道に活動を続けました。これらの経験をステップとして、私自身も新しいステージに進みたい」と話した。今後は大学院に進学し、より専門的に国際関係について学びたいと考えている。

2018年度の学長賞受賞者一覧

表彰日 発表会名 大会名 課外活動内容 / 受賞者

| 2019年 | | 2018年 | |
|-------|---|--------|---|
| 3月14日 | キャリアサポートガイダンスにおけるポスターコンテスト表彰 三輪響子、谷口穂乃花、川瀬和花、豊場茉衣子、山岡真悠子、天野ユリヤ、高橋彩愛、中島愛梨沙、森岡那月(附属高生) | 12月18日 | 大学生観光まちづくりコンテスト 井野将暉、加藤美季、鬼頭未有、水野紗稀、水野咲良、宮崎将知(国際英語学部 伊藤ゼミ) |
| 2月8日 | 海外課題研究報告会 原武和琴、下平 文子(国際教養学部) | 9月3日 | The 2018 Raymond Murphy Scholarship Essay Contest for Teachers and Students 榊原聖菜(国際英語学部) |
| 2月7日 | 第62回 全日本学生本因坊決定戦優勝 岡田 健斗(現代社会学部) | 7月19日 | 2018年度 英語圏文化専攻プレゼンテーションコンテスト 齋藤 萌、板倉 彩花、神野志 和子、鈴木 葵、森下 実和(国際英語学部) |
| 1月18日 | 第18回アジア競技大会競泳女子100メートルバタフライ種目 相馬 あい(スポーツ科学部) | 5月14日 | 第11回 森田林 英文毎日日林ペアで紹介する 日本文化英語プレゼンテーションコンテスト・地域から発信する日本文化 山口いつみ、一見とも子(国際英語学部) |
| 1月18日 | 第18回アジア競技大会競泳女子100メートル青泳ぎ種目 小西 杏奈(スポーツ科学部) | 5月11日 | Amazon Robotics Challenge 鳥居 拓耶(工学研究科) |
| 1月17日 | 2017 BACS Speech Contest (英語圏文化専攻スピーチコンテスト) 藤橋 祐貴、石川 ひかる、松尾 拓海(国際英語学部) | | |
| 1月16日 | 日米友好への貢献(日米学生会議への参加等) 金澤 つき美(総合政策学部) | 1月11日 | 踏査基礎演習共同発表会における優秀者への表彰 山北 美和・山田 瑠菜・山口 佑・安井 駿輔 井上 安理・今井 孝憲・日野 将平、 浅野 歩・石川 和音・石川 茉優(文学部の3グループ) |

学長賞



水泳部

小西 杏奈さん
相馬 あいさん

第18回アジア競技大会で好成績



第18回アジア競技大会（インドネシア・ジャカルタ）で優秀な成績を収めた水泳部の小西杏奈さん（スポーツ科学部4年＝写真右）、相馬あいさん（同学部3年）には、1月18日に学長賞が贈られた。



同大会で、小西さんは競泳女子100メートル背泳ぎで銀メダル、相馬さんは100メートルバタフライで4位に入賞した。今後、二人は5月末に行われるジャパンオープンで世界選手権への切符獲得を目指す。

小西さんは、今後に向けてトレーニングを週3回行い、「スクワットや懸垂を1回でも多く、ウエイトを1キロでも多く持ち上げられるように取り組んでいます」と話した。また2月からは約1か月間、メキシコで高地トレーニングなどを行った。

安村学長は「お二人の活躍に対し表彰でき、とてもうれしく思います。小西さんは、春から社会人ですが、卒業生としてこれからも頑張ってください」とエールを送った。

学長賞



現代社会学部 岡田 健斗さん

本学初の
学生本因坊に(囲碁)

東京・市ヶ谷で昨年8月に行われた第62回全日本学生本因坊決定戦で優勝した岡田健斗さん（現代社会学部4年）には2月7日、学長賞が贈られた。

同大会は、囲碁のアマチュア学生棋士日本一を決める大会で、優勝者は学生本因坊と呼ばれる。岡田さんは小学2年から囲碁を始め、中学1年から本格的にプロ棋士を目指し、囲碁に取り組んできた。所属する本学の囲碁倶楽部では2015年に団体戦で全国3位入賞を獲得している。年齢制限があるプロ棋士になる夢は叶えられなかったが、今後は「ア



マチュア日本代表として世界アマチュア囲碁選手権戦に出場し、優勝したい」と岡田さん。4月から社会人となるが「仕事以外の時間は囲碁の練習にあて、目標を達成したい」と意気込んだ。また、「今大会で優勝できたのは、ゼミの亀井先生をはじめ、多くの方々のサポートのおかげで、感謝しています。後輩には中京大学として全国大会で活躍してほしい」とメッセージを送った。安村学長は「中京大学の卒業生として、今後の活躍も期待しています」と激励した。



新年度 安村学長執行体制が2期目を迎える

副学長2人体制 学長補佐に職員より森氏新任

再任された安村仁志学長のもと、中京大学学術関連役職者の新体制が3月の梅村学園定例理事会で承認された。副学長は2人となり、種田行男教授（教育担当、スポーツ科学部長）が再任されたほか、昨年度まで学長補佐だった桑村哲生教授（研究担当）が新たに就任した。

学長補佐には新たに森勇夫学事局長（学事SD担当）が就任。また、中村雅章教授（教育FD, IR担当）、経営学部長、経営学研究科長）、大森達也教授（学生支援・高大接続担当、総合政策学部長、経済学研究科長）、佐道明広教授（大学院・国際化推進担当）は前期に続き再任となった。

安村学長のもと、教員、職員が協力して、教育の質保証・研究の一層の充実を進めていくことになる。



中京大学 学長
安村 仁志

この度再任され、2021年3月まで学長職を務めることになりました。

副学長2名、学長補佐4名（内1名は行政職）体制で、教育、研究、学生支援におい

て質保証に努め、ブランド力を高めていくことに臨みます。引き続き《大学の主人公は学生！》のもと、学生たちはそれぞれの持てるものを最大限に伸ばし、力をつけ社会に巣立っていきけるよう、自覚をもって勉学に励み、教員・職員は教育、研究、指導をもって支援していく大学を目指します。国公立の枠を超えて近隣大学と連携し、名古屋の大学の魅力を国内外に示していくことを構想しています。

Do our best!

新副学長
桑村 哲生



安村学長のもと、この3年間は主に研究担当の学長補佐として、研究員制度の新設、研究不正防止等の規程整備、学内研究費の制度改革、外部

研究資金の獲得促進等に取り組んできた。今年度は科研費獲得件数が百件を超えて2年前の1.6倍に達したが、さらに本学全体の研究のレベルを上げて、教育の質の向上に挑戦していきたい。

【略歴】
1978年京都大学大学院理学研究科博士課程。理学博士。1980年中京大学教養部講師採用、助教授、教授。2008年国際教養学部教授。教養部長、同教学部長、同学生支援室長、同学長補佐など歴任。

新学長補佐
森 勇夫



大学設置基準にSDの義務化が盛り込まれて久しい。また、近年は、学位や教育の質保証、学習成果の可視化が求められている。

さらなる教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員の企画・管理運営能力の向上に向けて、関係する機関や部署の方々と協力しながら、必要な知識、技能の習得機会の提供に尽力したい。

【略歴】
1982年早稲田大学理工学部卒。1992年中京大学採用。学事センター部長、同キャリアセンター部長、同資格センター部長、同教学部事務部長など歴任。

【副学長】



種田 行男
副学長（教育担当）
スポーツ科学部長

1984年中京大学大学院体育学研究所修士課程。博士（医学）。2004年中京大学システム工学部教授採用。2008年情報理工学部教授、同工学部教授。

【学長補佐】



中村 雅章
学長補佐（教育FD, IR担当）
経営学部長、経営学研究科長

1990年名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程。博士（工学）。1995年中京大学経営学部助教授採用、教授。経営学部長、同大学院ビジネスイノベーション研究科長など歴任。

大森 達也



学長補佐（学生支援・高大接続担当）
総合政策学部長、経済学研究科長

1998年名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程。博士（経済学）。1998年松阪大学政治経済学部講師採用。2001年松阪大学政策学部助教授。2005年三重中京大学現代法経学部助教授、教授。2013年中京大学総合政策学部教授。2016年より総合政策学部長。

佐道 明広



学長補佐
（大学院・国際化推進担当）

1989年東京都立大学（現首都大学東京）大学院社会科学部研究科博士後期課程。博士（政治学）。2004年中京大学商学部助教授採用。2005年総合政策学部教授。総合政策学部長、同経済学研究科長など歴任。

就職力

「就職に力を入れている大学」 ランキング 東海地区私立大学1位 全国で20位にランクイン

| 順位 | 大学名 | 所在地 | ポイント |
|----|-------------|-----|-----------|
| 1 | 明治大学 | 東京都 | 412 |
| 2 | 金沢工業大学 | 石川県 | 284 |
| 3 | 立命館大学 | 京都府 | 125 |
| 4 | 法政大学 | 東京都 | 122 |
| 5 | 九州工業大学 | 福岡県 | 85 |
| 6 | 福井大学 | 福井県 | 82 |
| ◇ | 早稲田大学 | 東京都 | 82 |
| 8 | 近畿大学 | 大阪府 | 79 |
| 9 | 福岡工業大学 | 福岡県 | 70 |
| 10 | 産業能率大学 | 東京都 | 58 |
| 11 | 東京理科大学 | 東京都 | 56 |
| ◇ | 立教大学 | 東京都 | 56 |
| 13 | 慶應義塾大学 | 東京都 | 54 |
| 14 | 中央大学 | 東京都 | 53 |
| 15 | 大阪工業大学 | 大阪府 | 50 |
| 16 | 芝浦工業大学 | 東京都 | 40 |
| 17 | 青山学院大学 | 東京都 | 38 |
| 18 | 専修大学 | 東京都 | 36 |
| 19 | 昭和女子大学 | 東京都 | 35 |
| 20 | 中京大学 | 愛知県 | 33 |
| ◇ | 国際教養大学 | 秋田県 | 33 |
| 22 | 日本大学 | 東京都 | 31 |
| 23 | 関西学院大学 | 兵庫県 | 30 |
| 24 | 京都産業大学 | 京都府 | 29 |
| 25 | 長岡技術科学大学 | 新潟県 | 27 |
| ◇ | 東京女子大学 | 東京都 | 27 |

最新版「就職に力を入れている大学」ランキング
<https://toyokeizai.net/articles/-/269714>

「東洋経済 ONLINE」が3月に発表した「就職に力を入れている大学」ランキングで、本学が東海地区の私立大学で1位、全大学においては20位にランクインした。大学に求められる就職力は、就職率という「量」から、どこに就職するかという「質」にシフトしており、進路指導教諭から「就職に力を入れている大学」として評価されるには、就職率だけでなく、大企業への就職力の高さもポイントになっている。同ランキングは、高校の進路指導教諭に対して行った調査をもとに集計されたもので、期待に応えている本学の取り組みや実績が評価されたといえる。

社会貢献力

THE 大学 インパクトランキング2019 世界301+にランクイン (国内では19位)



Times Higher Education (THE)が、4月3日に発表した“2019 THE University Impact” (以下、インパクトランキング)で、中京大学が世界301+にランクインした。

日本の大学では、41大学が総合ランキングでランクインし、中京大学は国内19位だった。

インパクトランキングは、国連が掲げる「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」のうち大学と関連が高い11の目標をランキングの対象とし、大学の「社会貢献力」に重点を置いた世界初のランキングで、76か国がエントリーし、462大学がランク付けされた。

インパクトランキングでは、総合ランキングとSDG別ランキングがあり、中京大学は総合ランキングで301+だったほか、全てのSDG別ランキングでもランクインしている。

| | 全体 | 国内 |
|---------------------------|---------|--------------------|
| 総合 | 301+ | 19位 41大学 |
| SDG3: すべての人に健康と福祉を | 201-300 | 19位 40大学 |
| SDG4: 質の高い教育をみんなに | 301+ | 15位 39大学 |
| SDG5: ジェンダー平等を実現しよう | 301+ | 18位 28大学 |
| SDG8: 働きがいも経済成長も | 201+ | 17位 28大学 |
| SDG9: 産業と技術革新の基盤をつくろう | 201-300 | 22位 36大学 |
| SDG10: 人や国の不平等をなくそう | 201+ | 10位 27大学 |
| SDG11: 住み続けられるまちづくりを | 201+ | 17位 30大学 |
| SDG12: つくる責任 つかう責任 | 101-200 | 12位 24大学 |
| SDG13: 気候変動に具体的な対策を | 201+ | 21位 25大学 |
| SDG16: 平和と公正をすべての人に | 101-200 | 9位 28大学 |
| SDG17: パートナリーシップで目標を達成しよう | 301+ | 25位 43大学 |

中京大学が〈大学ランキング〉で好評価を獲得

「工学部」橋本研究室合同チーム ROC2

ワールドロボットサミット2018で2位入賞！ 日本ロボット学会特別賞を受賞

昨年10月17～21日、東京ビッグサイトで行われた経済産業省主催の「ワールドロボットサミット2018 (WRS)」で、工学部橋本研究室とオムロン、中部大学の合同チーム「ROC2」が国際ロボット競技会ワールドロボットチャレンジに出場した。出場したのはサービスカテゴリー、フューチャーコンピニエンスストアチャレンジ (FCSC) の陳列・廃棄部門で、国内外から参加した全14チーム中、2位に入賞した。昨年度は優勝しており、2年連続の入賞となった。さらに、



学会賞として「日本ロボット学会特別賞」を受賞した。

競技は、サンドイッチやおにぎりなどの商品をきれいに並べる「陳列」と、商品の賞味期限を自動的にチェックする「廃棄」の2項目で行われた。「ROC2」は陳列の項目で50点の満点、廃棄の項目で24点を獲得し、合計74点。東芝らの「U・T・T」チームと同点だったが、タスク実行時間の評価により「U・T・T」



が1位、「ROC2」が2位となった。橋本研究室は、ロボットのAI技術として、得意とする画像認識システム開発を担当し、チーム入賞に大きく貢献した。

AI技術を活用したロボット研究に取り組む工学部橋本研究室は、昨年行われた技術展示会への出展、ロボット競技大会への参加に挑戦。この分野で大きな注目を集めている。

「工学部」橋本学教授
NEDO人工知能プロジェクト成果を
CEATEC Japan 2018で披露



幕張メッセ (千葉) で昨年10月16～19日に行われたCEATEC Japan 2018 (シーテックジャパン2018) に工学部橋本学教授が国立研究開発法人産業技術総合研究所 (産総研) とともに、NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構) の人工知能プロジェクトの研究成果を披露した。4日間で15万人超が来場した。

今回出展した「道具を使つて全自動でお茶をたてるAIロボット」でカギとなる新技術は、日用品の「機能認識」であった。スプーンであれば「小さくくぼみすくう」、コップであれば「大きくくぼみ↓水を蓄える」など、日用品は形から想起される機能を持つ



ている。これを深層学習 (ディープラーニング) を用いて推定し、道具の使い方を自ら考えるロボットを実現した。ブースでは、茶道具 (茶さじ、柄杓など) の種類や位置、機能を認識したロボットが、事前の細かいプログラミング (道具の選択、掴み方など) なしで、お茶をたてる様子を実演。実演には多くの来場者が注目し、海外を含む多数のメディアの取材や省庁幹部の視察もあった。

国際会議 IWAIT2019で 2件の「最優秀論文賞」を受賞



工学部・川瀬陽平さん(4年)、工学研究科・田口皓一さん(修士2年)、橋本学教授の研究チームと、工学研究科・楊宗哲さん(修士2年)、道満恵介講師、山田雅之教授、目



加田慶人教授の研究チームは、1月6〜9日にシンガポールで開催された国際会議「IWAIT-IFMIA2019」で、最優秀論文賞にあたる「Best Paper Award」をそれぞれ受賞した。

橋本教授らの受賞論文は「Integrated Analysis of Position of Gaze/Hand for Skill-up Process Analysis of Assembly Tasks」。熟練技術

者の技能を、人工知能(画像処理技術)によって自動的に分析し、「匠の技」の秘密を解き明かすための斬新な情報処理手法を提案した。

目加田教授らの研究チームが受賞した論文は「Character recognition of modern Japanese official documents using CNN for imbalanced learning data」。法学部の檜山幸夫教授らと共同で進める、台湾総督府文書の自動認識に関する研究の一部で、人工知能の学習のために使うデータの分布が偏っているときに、その認識性能を向上させるための工夫とその効果を示した。

「橋本研究室」川瀬陽平さん(工学部4年) 電子情報通信学会バイオメトリクス研究会で受賞

工学部4年の川瀬陽平さんは昨年11月21日、BioX研究会奨励賞を受賞した。同賞



は、電子情報通信学会バイオメトリクス研究会(年4回開催)で発表された論文の中から、特に優れた研究論文に贈られる。

川瀬さんの発表タイトルは「組立作業における視線と身体動作の連動性分析のための視線・動作に関する統合特徴

量の提案」。川瀬さんは「組立作業における熟練者の技を分析するための手法を提案しました。受賞は橋本先生、先輩方のご指導のおかげです。

受賞で研究に対するモチベーションが向上し、今後より良い研究ができるように精進したい」と話した。

NEWS 一発合格

経営学部3年 石松知幸さん 公認会計士試験に

経営学部3年の石松知幸さんは、昨年11月に発表された公認会計士試験に合格した。

公認会計士とは、企業の監査と会計を専門分野とする国家資格を持つ職種。公認会計士になるには難関として知られる公認会計士試験の合格が必須となる。

公認会計士試験は、年2回実施される短答式試験(財務会計論・管理会計論・監査論・企業法)と、年1回8月に行われる論文式試験の二つに合格する必要がある。毎年合格率は10パーセント前後と非常に狭き門だが、石松さんは初めての挑戦で見事「一発合格」を成し遂げた。中京大生で現役合格は石松さんと2人目。

試験について、「基礎を大事に勉強しました。基本が理解できていれば応用が利くので、暗記するより理解することに努めて勉強を続けました」と振り返った。

石松さんは昨年12月から監査法人で実務経験を積み、公認会計士の資格取得を目指している。「会計はもちろん、『コンサルタントができる』など他の強みを持った会計士になりたいです」と目標を語った。



3,017人が新生活をスタート 2019年度入学式



安村仁志学長は式辞で、「集いたる若人は、この学び舎で学術の実を熟

新入生を代表して、スポーツ学部・石川翔さんが「謙虚な気持ちをお忘れず、たくましく成長していきま

2019年度中京大学入学式が4月2日、名古屋市中区の日本特殊陶業市民会館で行われ、学部生2934人、大学院生83人の合計3017人が新たな一歩を踏み出した。

心に摘み取っていく。これぞ皆さんの母校となる中京大学です。大学は夢、希望にあふれる学びの場です。自らよく考え、期待しつつ、勇気を持って決断することが重要です。自律的に自由に『私の大学時代』を作り上げ、一歩一歩新しいことを発見し、探求する醍醐味、達成度などを味わってください。また『自分にとって大事だ』と信じることを、こうありたいという希望を持ち、『自分の学ぶこと・すること』を愛してください」とあいさつした。





梅村清英総長・理事長は「皆さんが入学したこの年は新しい時代が始まります。昨日、新元号が『令和』と公表されました。ぜひ新時代を切り開いていく気概を持ち、社会のどの分野で自分を生かしていくか、考えてほしいと思います。皆さんはこれから始まる学生生活に『高い志』を持ち、怠ることなく、常に校訓『真剣味』で臨んでください。広く深く学びながら、これからの4年間で人脈を作ってください」と言葉を贈った。



式典終了後、スポーツ科学部に入学したフィギュアスケートの横井ゆは菜選手、シヨートトラックスピードスケートの井上瑠汰選手が新聞・テレビの取材に応じた。横井選手は「時間を上手く使い、『楽しむ時・追い込む時』など生活のメリハリをつけ、充実した時間を過ごしていきたいです」と話した。井上選手は「大学内にリンクがあるなど、最先端の環境も整っていますし、選手層も厚いです。この練習に没頭できる環境で、自分がどこまで成長できるのか楽しみです」と大学生活の意気込みを語った。

会場前に設置した「入学式」の看板前では、保護者や友人らと記念撮影する長い列ができ、笑顔の中にも緊張感の漂う新生たちの姿があった。





2,895人が新たな門出 2018年度卒業式



2018年度卒業式が3月19日、名古屋国際会議場で行われ、学部生2828人、大学院生67人の合計2895人が「中京」の学び舎を巣立った。

会場周辺では詰めかけた在学生たちが卒業生を囲み、写真撮影や先輩の言葉に耳を傾ける姿、また胸上げなどが行われる姿があった。

式典は和やかな雰囲気の中で進行し、学部、大学院の各代表者へ学位記が安村仁志学長から授与された。学業や課外活動などで優秀な成績を修めた卒業生には同窓会賞・学部長賞などが贈られ、学長賞では安村学長より「よくがんばりましたね」の言葉がそえられた。

団体賞理事長杯や創立者梅村清明体育会杯の授与では、受賞者が壇上で振り返り、会場に向かって「4年間お世話になりました」「東京オリ

ピックで金メダルをとります。応援よろしくお願いします」などと挨拶。会場からは大きな拍手が沸き起り「頑張れ！」と声が上がっていた。

安村仁志学長から「人間を教育する以上、無機質な教育でなく、個々の学生に対し成長を願う愛を持って教育することを目指し、人問味の要素を失わない大学を求めていきたい。このような大学で学んだことを誇りとし、自信を持って羽ばたいてください。また、私たちとともに世

界を形成している人々のことを思い、悲しい出来事を他人事としない、そのような生き方をしたいってください」との言葉が贈られた。

最後に「さようなら・お元気で。またお会いしましょう、の思いを込めて『Good-bye』の歌を贈ります。心をこめて…」とアカペラによる歌が始まった。どよめき声と拍手が沸き起り、笑顔で聴いていた卒業生だったが、学長の歌声に目頭をおさえる姿もあった。



梅村清英総長・理事長は、「中京大学の卒業生は13万人を超えており、社会のあらゆる分野で活躍しています。今後はさまざまな場面で同窓生と出会い、中京大学で学んだ経験を共有できるでしょう。同窓生との『繋がり』『絆』を大切にしてください。社会人になってからも母校との繋がりを持ち続け、これからの高い志を持って、怠ることなく、常に校訓『真剣味』で臨んでください」とお祝いの言葉を述べた。

卒業生を代表して工学部の野玉昂志さんは「この4年間で学んだ知識や出会った仲間、数々の助言を思い

だと、一歩踏み出す勇気がみなぎってきます。中京大学での経験が必ず将来に生かされていくと確信しています」と謝辞を述べた。

また、在学時にスポーツの分野で

活躍した学生3人がマスコミの取材に応じた。スケート部の本郷理華さん、水泳部の小西杏奈さん、陸上競技部の池田樹生さんはそれぞれ学生時代の思い出や、卒業後の抱負を語った。

田中恒成選手に理事長特別賞

プロボクシングWBO世界フライ級チャンピオン田中恒成選手(細中ジム・経済学部卒)に理事長特別賞が授与された。

田中選手は、昨年9月に卒業しているが、在学中の功績に対して、3月19日の卒業式での授与となった。この賞の受賞者は、2014年度に卒業した浅田真央さん以来で、3人目となる。

田中選手は「在学中にボクシングだけで食べていけるよう頑張った。それができたことが嬉しかった。卒業だけは絶対にしようと思った」と語った。

田中選手は3月16日に元WBA・IBF世界ライトフライ級統一王者田口良一選手(ワタナベ)と対戦し初防衛に成功している。



総合政策学部 宮川ゼミ

企業と連携し新商品を開発 三重県のSA、PAで販売



総合政策学部・宮川正裕教授が指導するプロジェクト研究(ゼミ)が昨年11月16日、NEXCO中日本、中日本エクスプレス、風味堂「菓匠たばね庵」と連携して開発した新商品「贅沢おかし三重のよくばりさん」の三重県内のサービスエリア(SA)、パーキングエリア(PA)での販売開始に伴い、学生らによるPR、販売活動を行った。

宮川教授とゼミの学生らは、11月1日には鈴木英敬・三重県知事に新商品を紹介するため表敬訪問もしている。

新商品は、三重県産の素材(松阪牛、あおき、海苔わさび、伊勢海老、ひじき、真珠塩)を使用した6種類のおかきで、「自家用、贈答用に愛され続ける商品」をコンセプトに開発された。また12月3〜7日まで、学内の生協横スペースでも販売され、目標120個が完売となった。チームリーダーの岡田莉奈さん(同学部3年)は「パッケージ決めなどで苦労したこともありましたが、サービスエリアで販売した際、お客様に自分たちが提案した商品を美味しいと言ってもらえた時は、本当にうれしかったです」と活動を振り返った。

平成30年度「社会人基礎力育成グランプリ」中部地区大会 「優秀賞」を受賞



太田遥香さん(いずれも同学部3年)のチームが昨年12月2日、社会人基礎力育成グランプリ中部地区大会で「優秀賞」を受賞した。

学部では実践科目として「社会人基礎力講座(公共編・ビジネス編)」を開講している。今回は、平成30年度春学期に講座を履修した学生の代表で構成される2チームを含む7大学9チームが同大会で発表し、中京大学のビジネス編チームが「優秀賞」を受賞した。

宮川教授が指導する「社会人基礎力講座ビジネス編」を受講した長村佳歩さん、後藤志伊奈さん、

域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要となる基礎的な力」であり、総合政策

発表テーマは「ハイウェイのオアシスで旅人が手にするお土産とは?―地域活性化マーケティング・マネジメントの挑戦と成果―」。

総合政策学部 今井ゼミ

産学連携地域振興プロジェクト 「市電でめぐる運命ゲーム in 豊橋」



豊橋鉄道株式会社と合同で「市電でめぐる運命ゲーム in 豊橋」(後援:愛知県)を開催した。

これは、豊橋の観光資源である市電(路面電車)の各駅と沿線スポットを、人生をモチーフにしたゲームに見立てたイベント。次代の観光振興を担う学生の育成を目的とする「あいち学生観光まちづくりアワード」で2018年3月に今井ゼミ生が敢闘賞を受賞したアイデアから発足し、学生40人がイベントを企画、運営した。

当日は29組の親子が参加。参加者はイベント中、各駅で学生から出される「お題」をクリアし、ゲーム内通貨「じゃんだら」を集めながらゴールを目指す。最後には結果発表が行われ、集めた金額順位に応じて市電運転体験など協賛企業提供の賞品が授与された。

ゴール地点の赤岩口駅では、VRを使った手筒花火体験や、子ども車掌服撮影会、市電ピット見学も行われた。

当日はテレビ局や新聞の取材も入り、イベントは賑わいを見せた。



「イルミネーションストーリー in とよた2018」で 照明アートを設置

豊田市のイベント「イルミネーションストーリー in とよた2018」で、工学部メディア工学科・宮田義郎ゼミと豊田まちづくり株式会社と連携して制作した照明アートが、設置された。イベントは、「世界を照らすかがやき」「TRY FOR ALL」をテーマに掲げ、昨年11月24日から今年の1



月14日まで開催された。豊田市の中心市街地一帯（駅西ペDESTロアンデッキ、駅東ロータリーなど）を照明アートで飾るもので、宮田ゼミは一昨年に続き、2回目の参加。今回は13個の作品を制作し、松坂屋と「Lace」の間の8階連絡通路に設置された。



宮田教授のゼミでは9月から企画・運営を行い、教授が指導する授業「メディアと地域社会」でプログラミングと枠組み制作を行った。照明アートはマイコン（micro:bit）をプログラミングすることで、LEDを連結した

テープ（Neonixel）を光らせる。一部には、ohvizというシステムを使用し、Wi-Fiに接続してインターネットから信号を送れるようにした。見る人がスマホでページを開き、LEDの色を操作できる仕組みを開発した。



経営学部・津村将章ゼミと企業が連携して作成したパンが、昨年12月下旬に「パンのトラ」八事店で販売された。この取り組みは、津村ゼミと「パンのトラ」を運営する株式会社トラムスコープの産学連携によるもので、マーケティングの授業の一環として取り組んだ。学生たちは提携先の企業探しから、企画提案、販売協力までを1年がかりで行った。企画立案では議論を重ね、「さくとりつ親子井パン」と「肉みそツムツムサンド」を開発した。



経営学部 津村ゼミ×「パンのトラ」八事店 新商品を開発

「さくとりつ親子井パン」は、これまで味わったことのない新しい食感で揚げパンとの相性の良さが特長。「肉みそツムツムサンド」は、愛知名物の赤味噌を使用し、美味しく食べ応えのあるサンドウィッチに仕上げた。販売時にはテレビ取材も行われ、朝の情報番組「ZIP!」（中京テレビ・日テレ系列）で放送された。



経営学部 矢部ゼミ

「KUBIC 2018」で優秀賞を受賞

経営学部・矢部謙介ゼミの3年生チームは、昨年10月8日に開催された関西大学ビジネスプラン・コンペティション「KUBIC 2018」学生力の本選に出場し、テーマ部門で優秀賞を受賞した。

「KUBIC」は関西大学が主催するコンテストで、2006年からスタートした。全国の大学生や高校生から、さまざまなベンチャービジネスプランを募集し、その内容を競う。今回は大

学・大学院・一般の部への応募453件の中から選出された。

受賞したチーム「EdWatch」

のメンバーは矢部ゼミ3年の永戸涼介さん（リーダー）、赤井祐介さんの2人。「EdWatch」非

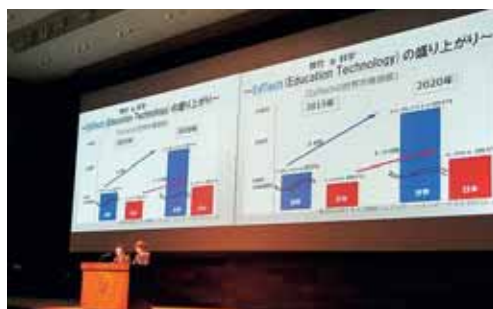
認知能力で子どもたちに幸せなミライをー」をテーマに腕輪型

の生体信号システムを使って、

子どもたちの集中力や忍耐力な

どの非認知能力を数値化し、養

成するプランを提案した。



経営学部 中村ゼミ

プレジールと共同でハンバーガーを限定販売

経営学部・中村雅章ゼミの3年生5人は、昨年10月29～11月1日の4日間限定で、名古屋キャンパス学生食堂「プレジール」とハンバーガーを共同開発し、販売した。

この取り組みは、中村ゼミ生の提案でプレジールとの共同開発プロジェクトとして行われた。学食のメニューにハンバーガーが無いことから、プレジールに

話を持ちかけ、6月下旬からプロジェクトを開始した。

学生たちは7案を提案し、原価や作業工程を考慮した3案が採用された。販売したのは、オリジナルの「みそカツバーガー」

「かき揚げバーガー」「さわやか

バーガー」の3種で、ほかにハー

フ&ハーフバーガー、サラダセツ

トなども用意。購入者からも好評を得た。



体育学研究科 修士2年・瀧川 寛子さん

日本陸上競技学会で「優秀発表賞」を受賞



日本陸上競技学会第17回大会が昨年11月10、11日に桐蔭横浜大学で行われ、体育学研究科修士2年の瀧川寛子さん（応用スポーツ科学、指導教員・田内健二教授）が「優秀発表賞」を受賞した。同学会は競技&生涯スポーツとしての陸上競技の諸問題を科学的に解明し、競技力の向上に資するもの。

今回の演題は「女子やり投げ競技者における成功試技と失敗試技が生じる動作的要因の検討」。

やり投げ競技で、個人で記録の優劣が生じる原因を投てき動作の変化と関連付けて統計的に分析。左脚のブロック動作の成否が、優劣が出る原因であることを証明した。学部生時代（東大阪大学）、日本学生個人選手権大会の優勝経験（やり投げ）がある瀧川さんは、本学大学院に進学した今も第一線で競技を続け、学問との両立に励んでいる。

「アイデアピッチコンテスト2018」で優秀賞



国際教養学部・齊藤公輔ゼミ3年の林顕人さん、近藤菜実さんのチームOGOは、昨年11月27日、名古屋工業大学で行われた「アイデアピッチコンテスト2018」で優秀賞を受賞した。同コンテストは、名古屋大学における起業家育成の拠点としてビジネスの起業支援や教育、ベンチャー企業の立ち上げなどを行う「Tongaliプロジェクト主催の大会。起業、企業と連携した新事業、社会貢献などのテーマでアイデアを競い、予選通過チームのうち5組が「Tongali賞（優秀賞）」に選ばれる。チームOGOは、病院の問診票の内容を外国人向けに多言語に対応できるアプリケーションの開発を提案。問診票に事前に入力しておくことで、受診時の負担を減らす試みを、スピーチ形式で発表し、評価された。

「ビジネスプラン・コンテスト」で特別賞を受賞

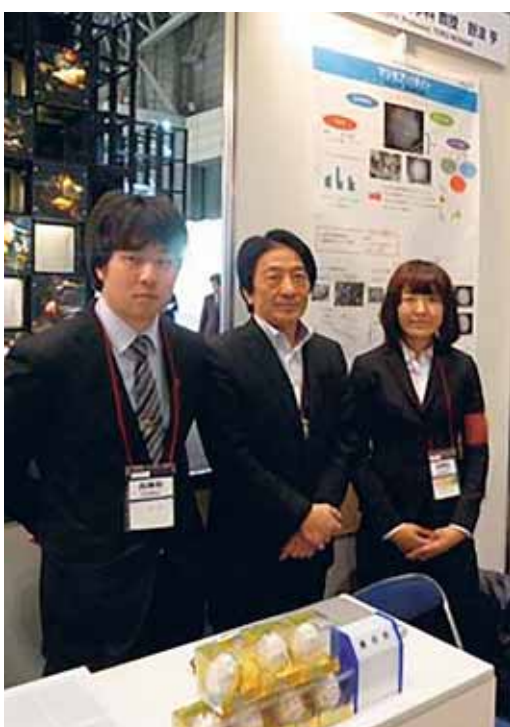


また、齊藤ゼミ3年の鈴木正虎さん、南川千佳さんのチームは、椋山女学園大学現代マネジメント学部主催で昨年12月15日に行われた「第6回ビジネスプラン・コンテスト」本大会で名古屋商工会議所特別賞を受賞した。同大会は、「現代社会の課題を解決するビジネスプランおよび地域活性化プラン」を近隣都市に通う大学生、高校生から募集し、優秀なプランを表彰するもの。2

人のチームは「コネクトで充実したジャパンライフ」と題し、在日ブラジル人と日本語教育をつなぐためのマッチングアプリ「コネクト」について発表した。日本語学習に加え、講師を自宅に招き、趣味や日本文化などを通じて、在日ブラジル人が学べるスタイルを提言した。

化粧品開発展「COSME Tech 2019」で研究成果を発表

第9回化粧品開発展「COSME Tech 2019」が1月30日〜2月1日、千葉・幕張メッセで開催され、工学部の野浪亨研究室が独自開発したハイドロキシアパタイト（以下、マリモアパタイト）の研究成果を発表した。同展示会は「COSME TOKYO 2019」「第2回国際健康食品・美容商品EXPO」との同時開催。世界30か国から762社の化粧品メーカーが出展した。会場には研究者たちがプレゼンテーションやポスター展示による発表を行うためのアカデミックフォーラムが設けられ、本学を含め60大学が出展。野浪研究室が開発したマリモアパタイトは、微細な板状結晶の集合体で、結晶間に多数の微小な隙間を有している。微小サイズの機能性材料を担持させることで多機能複合材料が開発でき、近赤外線防御機能を持つ化粧品や医薬品の原料としての応用が期待できる。



● 文部科学省の補助事業

「私立大学等改革総合支援事業」に選定される

タイプ2（産業界との連携）およびタイプ5（プラットフォーム形成）

中京大学は、文部科学省の補助事業「平成30年度私立大学等改革総合支援事業」において、タイプ2「産業界との連携」とタイプ5「プラットフォーム形成」に選定された。

私立大学等改革総合支援事業は、教育の質的転換、地域におけるプラットフォーム形成、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの大学改革に組織的・体系的に取り組む私立大学等を選定し、当該大学等の財政基盤の充実を図るため重点的に支援するもの。

タイプ2「産業界との連携」は、企業など産業界との連携、ベンチャー企業の設定等の取り組みが評価対象となり、今年度初めての選定となった。

タイプ5「プラットフォーム形成」は、「地方型」と「都市型」の2種類に区分され、今回の選定結果では、地方型が15件に対して、都市型は中京大学がとりまとめ校として形成する「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム（以下、豊田市プラットフォーム）」を含め、8件の選定となった。なお、このうち「発展型I」として選定された都市型プラットフォームは3件（「豊田市プラットフォーム」「大学コンソーシアム京都」「ひょうご産官学連携協議会」）のみで、愛知県では「豊田市プラットフォーム」が唯一の選定となった。

豊田市と豊田市に本拠地を置く4大学等（中京大学、日本赤十字豊田看護大学、愛知工業大学、豊田工業高等学校）がプラットフォームを形成していたが、2018年度は産業界として新たに「一般社団法人ツーリズムとよた」が参画したことで、産学官の連携がより強固なものとなった。

本学は今回の選定結果により、今後ますます産業界・自治体・他大学等との連携を強化するとともに、国際化・グローバル化の推進にも努めていく。

● 経済学部 中山 恵子教授

「厚生労働省労働基準局長表彰」を受賞

経済学部・中山恵子教授は昨年12月11日、愛知労働局長から「厚生労働省労働基準局長表彰」を受賞した。

同表彰は、労働行政に係る施策の推進や有益な研究等を行い労働行政の推進に顕著な功績があった者や団体を表彰するもの。なお、中山教授は、地方自治や産業界に貢献のあった者に与えられる「愛知労働局長表彰」（2016年11月受賞）に続いての受賞となる。

中山教授は、愛知地方最低賃金審議会委員（公益代表）として、2009年4月の就任以来、昨年9月末時点で9年6か月（会長職として3年6か月）にわたり、同審議会の円滑な運営に努

めてきた。労働基準行政の推進に貢献した功績が顕著であったことが認められ、今回の受賞となった。



● 心理学部 高橋 康介准教授

「The Young Psychonomic Scientist of the Year 2018」を受賞



日本基礎心理学会第37回大会・若手オーラルセッションが11月30日、専修大学生田キャンパスにて開催され、心理学部の高橋康介准教授が「The Young Psychonomic Scientist of the Year 2018」を受賞した。

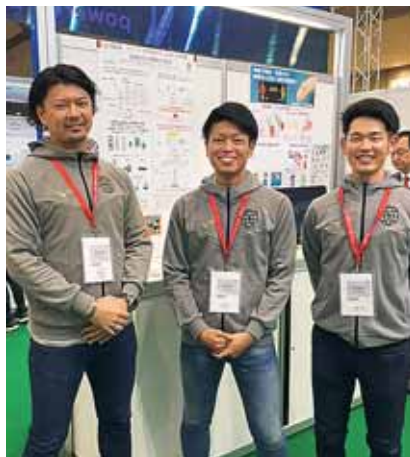
同セッションは、若手会の書類審査を経て選ばれた8人の若手研究者が集い、一人30分間のトークによるプレゼンと質疑応答を行う。観客投票でもっとも優れた発表1件を選定し表彰するもの。関係

者からは「基礎心理学の天下一武道会」とも呼ばれ、今年で5回目を数える。

高橋准教授は「😊は笑っていますか？絵文字の表情認知に関する文化比較研究」というタイトルでトークを行った。共同研究者である島田将喜・帝京科学大学生命環境学部准教授、大石高典・東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター講師、錢琨・九州大学持続可能な社会のため決断科学センター助教らと取り組んできた内容を発表し、今回の受賞につながった。

SEMICON JAPAN 2018に「筋疲労計」を出展

国際教養学部の渡邊航平研究室が昨年12月12～14日に東京ビッグサイトで



開催された「SEMICON JAPAN 2018」に出展した。

このイベントは半導体製造装置・材料の国際展示会で、今回は5万人を超える来場者が訪れた。今年は主催者による特別展示「SPORTS ×IoT」なども行われた。

渡邊研究室からは、「筋疲労計」を展示した。筋疲労計は、筋肉が収縮するときに発生する生体電位を表面筋電図法と骨格筋電気刺激を併用し、活動電位伝導速度という生理学的指標から筋肉の疲労状態を定量的

に評価するシステムで、デバイスを小型化、無線化した。

このシステムは、SMK株式会社との産学連携で開発されたが、既に国内外で4件の特許申請を完了している。今後の社会実装に向けて、スポーツや労働の最中における疲労の可視化、スポーツ選手のコンディション評価への応用が想定されている。ゼミ生も展示ブースに立ち、来場者へ研究室で発明した技術とその応用可能性についての説明を行った。

渡邊 航平准教授制作の「転倒予防体操」を愛知労働局から公開



また、渡邊准教授が厚生労働省・愛知労働局からの依頼で制作協力した「転倒予防体操」が、1月22日に愛知労働局のホームページで一般公開された。

労働時における転倒は、死傷災害原因の23%を占めている（愛知労働局管内）。安全意識の高揚を図り、転倒しにくい身体づくりを進めるため、愛知労働局はこの体操を制作した。

体操の特徴は、片脚に意識的に加重をかけること。渡邊准教授は「筋力の改善に必要な負荷は、その人が持つ最大に出せる力の7割以上を負荷することが運動生理学の基本原則です。スクワットなど、自分の体重のみを負荷とした自重負荷運動では、

脚の筋肉に必要な強度を引き出すことは難しい」と説明する。研究調査から、特に高齢者の場合、片脚でのスクワットやヒールレイズは、その人を出せる力の100%に相当すると試算した。体重を片脚に3:7や2:8などの割合で負荷すれば、高い強度の負荷運動ができ、筋力の改善が期待できると考えられる。

愛知労働局では今後、この体操を広く周知する考えで、渡邊准教授も自身が主宰する高齢者健康教室「八事いきいきアカデミー」を中心に普及させていく。
※「愛知労働局 転倒予防体操」は愛知労働局ホームページから閲覧が可能（スマートフォンでも可）。

ENQUÊTE

アンケートにご協力ください

今後の広報誌改善のため、アンケートにご協力お願いいたします。

右記QRコードから読み取りのうえ、お答えください。

なお、回答していただいたことについては広報誌改善以外には使用いたしません。



芝浦工業大学と包括連携協定を締結



握手を交わす安村学長(右)と村上学長

中京大学と芝浦工業大学は昨年10月26日、芝浦工業大学豊洲キャンパス(東京・江東区)で、包括連携協定の締結式を行った。これは両大学の相互の特色を生かした交流を図り、教育・研究において包括的な連携・協力を推進することを目的としている。締結式には、安村仁志・中京大学学長、村上雅人・芝浦工業大学学長ら、関係者が出席。安村学長は「18歳人口が減る中で、これを機に学生の交流や教員の研究交流をさらに進め、

日本の大学全体のレベルアップを図りたい」と述べた。また、村上学長は「本学学生の8割が関東出身で、東海地方の大学との連携は、国内の多様性という観点から重要。交流が進めば、内なるダイバーシティの強化につながる」と期待を寄せた。両大学は、上海日本人学校高等部協力大学コンソーシアムで芝浦工業大学が議長校、中京大が副議長校として参加。また、マレーシアのツィニング・プログラム、グローバルPBL(Project Based Learning)、海外インターンシップの連携などを進



めてきた。今後は相互の地域におけるインターンシップ、企業と連携したPBLの実施、東京オリンピック様な連携が期待される。

西尾信用金庫との共同研究

経済学部が学術講演会&RESAS活用研修を実施

中京大学と西尾信用金庫は産学連携協定(2017年締結)に基づき、「新たな地域創生基盤基準の構築と西尾経済への応用」というテーマで経済学部と同金庫が共同研究を始めた。

昨年12月6日には、同金庫から企業支援部の小幡真幸氏を講師に招き、学術講演会「三河の経済から経営戦略を考える」を名古屋キャンパスで開催。当日は同学部教員やゼミに所属する2年生が参加した。小幡氏は、信用金庫に関する一般的な解説のほか、実例をもとに経営戦略の考え方を説明した。

今年1月には共同研究で第2弾と



なるイベントとして、RESAS活用研修会を実施した。RESASとは地域経

済分析システム (Regional Economy Society Analyzing System) の略で、国の行政機関が連携して提供する情報支援ツールのひとつ。地域経済に関する各種データを、わかりやすく「見える化」する取り組みである。

今回は西尾市の経済状況を調査するため、経済学部2年生、西尾信用金庫職員、西尾市市役所および地元企業関係者が合同で開催した。第1回(1月10日)は、RESASについての分析事例紹介のほか、学生が数人のグループに分かれ、西尾市に関する統計情報の収集、分析を行った。第2回(1月17日)は、分析の結果を発表した。

名古屋市立大学と合同講演会を開催

中京大学と名古屋市立大学の合同講演会「金融政策と地銀の統合—市民のくらしへの影響—」が1月10日、名古屋市立大学桜山キャンパスで開催され、一般、学生、大学教職員を含む350人が聴講した。両大学は昨年1月に包括連携協定を締結しており、経済研究所を有する大学連携の一環として実施された。

講演には岡野衛士・名古屋市立大学経済学研究所教授と小林毅・中京大学経済研究所長、経済学研究所教授がそれぞれ登壇した。岡野教授は現代の金融政策のメカニズムと経済への影響について2期間モデルを使用し、説明した。

小林教授は、地方銀行の経営統合に関わる功罪について語った。低金利政策により厳しい経営環境にある地方銀行が経営統合を選択する事例を紹介し、その方策について解説。「合併で地域金融市場の寡占化が進行すれば、貸出金利の上昇による利益を得られる。銀行にとっては有利だが、地域経済が犠牲になる可能性がある」と述べた。

附属中京高校がeスポーツ部を創設 高大連携で全国優勝を目指す



中京大学附属中京高校がeスポーツ部を創設し、3月26日に同校で記者会見が行われた。多くのマスコミが会見に訪れ、新聞やテレビで取り上げられた。

eスポーツとはコンピューターゲーム上で行なわれる競技で、近くオリンピック競技になる可能性も高いとされている。また、今秋開催される茨城国体では、正式種目のひとつとなることが決まっている。

会見では附属高校の伊藤正男校長が「大学の支援を受けて進めていけるeスポーツ部の活動は、高大連携する中京にしかできないことです」とあいさつ。eスポーツ部の小川青空監督は「全国優勝を目指す他の部活動と同じように高みを目指したい」と語った。eスポーツ部のアドバイザーに就任したサッカー部の岡山哲也監督は「バーチャルがリアルに生かされることが多くあると考えている」と、eスポーツとサッカー技術との相乗効果を期待していた。

また中京大学の卒業生で日本の女性初のプロゲーマーとして活躍する百地裕子さん(2008年度体育学部卒)も会見に駆けつけた。「何かに打ち込



み一番になる経験が今後に生きてくる。真剣に取り組み色々なるものを勝ち取って欲しい」と部員にエールを送った。現在は同校サッカー部員の中

中で入部を希望した7人が「ウイニングイレブン」というサッカーゲームで活動を行なっている。部員はサッカー部と兼部し、練習はサッカーの練習が無い時間に行なっている。「楽しそうだから」と入部した部員らのトータルの部活動の時間は増えたが、「サッカーを俯瞰できるようになった」「サッカーでもeスポーツでも全国優勝を目指したい」と語った。茨城国体出場を目指して活動を続けていく。



4月以降は、新1年生の入部希望者をサッカー部以外にも募集、今後は取り組むゲームを格闘技や野球にも広げていく。

高大連携を進める中で、中京大学工学部の目加田慶人教授と瀧剛志教授がeスポーツ部のアドバイザーとして就任した。目加田教授は「画像のバターン認識に関する研究も行っている。ゲームの上手な選手とそうでない選手の目や体の動きを解析し、部員に情報提供していこうと考えています」、瀧教授は「リアルとバーチャルの両者の関係性も見ながらゲームを分析し、一緒にやっつけていこうと思います」と話していた。



〈発行〉中京大学 広報課

〒466-8666名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL.052-835-7111(代)